

平成30年度 第1回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成30年9月26日(水) 14時00分～16時00分

場所 兵庫県尼崎総合庁舎 別館2階大会議室

■会長挨拶

この尼崎21世紀の森づくりは、阪神淡路大震災後の復興の目玉として、100年をかける「尼崎21世紀の森づくり構想」として立ち上げた経緯を思い出した。

近年の公園の動向を紹介すると、国営明石海峡公園では、未開園区域を民間事業者の資金で整備から運営を行い、さらに収益まで確保する取組が進められている。また、兵庫県立淡路島公園では、パソナが運営するニジゲンの森の来園者数が1.5倍となっているとのことである。さらに兵庫県立淡路島公園にはグランピング施設が設置され、人と自然の博物館から講師を招き、宿泊者に対してホテルの観察会のプログラムを提供しようという動きがある。このような民間事業者の公園での取組は、兵庫県だけでなく、日本全体で進められている。

また、国土交通省は、公園だけでなく、河川、道路も有効活用を求めており、河川でのカフェやビアガーデンの実施や御堂筋における車道の歩道化の事例をはじめ、積極的な公共空間の活用の取組が進められている。その中で、公園は遅れている状況といわれている。

このような動向に合わせ、尼崎21世紀の森づくりも、みなさんからご提案をいただいたながらどのように進めるかが、今後の課題であり、チャンスでもあると考えられるのでよろしくお願いいたします。

■議事(1) 協議会検討内容について及び(2) エピソードによる評価手法の検討**○資料説明(事務局)**

資料1「協議会検討内容について」、資料2「エピソードによる評価手法の検討」をもとに、事務局より説明した。

○意見交換

会長 : 「エピソードによる評価手法の検討」に関する補足になるが、日本の家電メーカーの炊飯器の例であるが、社員がお米の炊き方を変えて、炊いたお米のサンプルをいくつか準備し、それらを実際に食べて感じたことを評価する官能検査を行い、それをもとに炊飯器を製作している。

委員 : エピソードによる評価手法は、運河や海の活動についても進めていきたいので、関係者に紹介したいと思う。その中で◎○△×の違いが分かりにくいので、どのように考えればよいか教えてほしい。また、評価指標「おしゃれな雰囲気、賑わいなどまちの印象の良さを感じる」がアクティビティ「お金を使った」で評価できるのか。また評価指標「水やみどりに囲まれた工場の風景を発見する」とアクティビティ「見たことのない景色にふるえた」や評価指標「暮らしや環境に役立つ技術を知る、体験する」がアクティビティ「「尼崎の森」の名前をよそで書いた」も同様で、どのように考えたか教えてほしい。

事務局 : 事例にした「全国官能都市ランキング」の資料では◎○△×について、「しょうっちゅうあった」など頻度を示しているが、今回の試行ではまだそこでまで検討できていない。評価指標とアクティビティのキーワードも同様で、もう少し精査が必要であると考えている。

今後の試行に間に合うように、評価指標、アクティビティシートの改良版を検討し、対応したいと考えている。

委員 : 「アクティビティシート」の項目は、事務局ですべて考えない方がよい。このため今、確定させなくても良いのではないかと考える。主催者側が項目を考えて、イベントの参加者が気軽に、なんとなく応えられるようにすればよく、イベントごとに項目を作成してもよいと思う。

それに対して「シナリオの木」は、イベントの企画から準備、実施までを行うなど深く関わったスタッフに対して、より深く振り返ることができるものになっていると思う。「シナリオの木」は、もともと企業など、色々協力してくれた人や団体の森づくりへの参画が広がる中で、そのかわりに対して色々な視点から評価しようと検討したものである。わかりづらいという意見があったが、場面、場面で「アクティビティシート」、「シナリオの木」をうまく活用すればいいのではないかと思う。

委員 : 質的評価については、内閣府の「社会的インパクト評価に関する調査研究」などの研究がなされているが、数では見えない評価の見える化は非常に難しいと思う。評価については、それを使ってその後どうするかが一番大事である。評価指標の項目は、主催者側がこうしたいということを考えて項目を検討するものだと思う。また、アクティビティの項目は、参加者に聞くことなので、主催者側のスタッフ会議などで参加者にどんなことを感じてもらいたいか話し合いながら、アクティビティの項目を検討してはどうか思う。いまの「エピソードによる評価手法」は、主催者と参加者の思いが混じっているように思う。

事務局 : 質的評価については、個々のイベントの評価とするのか、各々のイベントの評価を比較するのかが評価指標やアクティビティシートの項目が違ってくる。個々のイベントの評価であれば、アクティビティシートをイベントごとに作って個々に評価すればよい。また、尼崎 21 世紀の森づくりの活動全体がどうだったかをトータルで評価するのであれば、色々なイベントを実施して総合的に4つのバランスをもった評価を得られればよいのではないかという考え方もある。どちらがよいか御検討いただきたい。

会長 : 参考資料の「全国官能都市ランキング」における身体性の評価指標については、五感を通じて感じたこととしてイメージしやすいが、関係性の評価指標については、自分とモノの関係をあらわすものであり、今の項目では、少し手薄であると思う。地域にあるモノや人との関係性が明確になれば、それが地べたに落ちて、地域に関する評価につながると思う。身体性については、直接イベントの評価にもつながることになると思う。また、4つの取組と評価指標があっていない気がするので、少し気にかけておいて慎重に進めて欲しい。

委員 : 評価指標の1つとして、トラック代金、人件費など主催者の経費、収益など、お金に関する項目を盛込んでどうかと思う。

会長 : 公園の費用対効果に関連する内容であり、尼崎 21 世紀の森づくり版の費用対効果の検

討も必要かもしれない。

委員 : 質的評価についての検討は本当に難しいと思う。協議会とは別に部会を作って、もっと評価について検討してはどうか。

委員 : 自分で仕掛けて取組んだイベントは、どうしても評価が甘くなるので、監査部会のようなものを設けてもいいかもしれない。

事務局 : 現段階では、一旦今回の協議会でご提案している評価指標やアクティビティの項目を用いて、「あまがさきモリンピック」など今後開催予定のイベントで試行的に評価を進めることとさせていただきます。

委員 : 評価指標を 4 つの取組に関連付けることに、無理があったように感じる。身体性、関係性で評価指標やアクティビティの項目を検討したほうがわかりやすいと思うし、今後につながるものになると思う。

会長 : 事務局は今後のフィードバックがきくようにデータの蓄積や評価手法の検討を進めていただきたい。また、参考資料の「全国官能都市ランキング」は既存の都市を対象としているが、尼崎 21 世紀の森づくりは、完成途上の公園や地域という違いを意識してほしい。

■議事（3）報告事項

○資料説明（事務局）

参考資料 1 「平成 30 年 3 月以降の主な取組と公園利用者の情報について」、参考資料 2 「全国運河サミット in 尼崎 2018 開催について」、参考資料 3 「工場緑化の顕彰制度について」、参考資料 4 「サイクル&ウォークロゲイニングについて」をもとに事務局より資料説明を行った。

○意見交換

委員 : 参考資料 3 「工場緑化の顕彰制度について」は感謝状を出す趣旨の制度であるにもかかわらず、対象者に申請書を提出してもらい、審査までするというのはいかがなものか。自薦他薦を問わない推薦書であればいいが、感謝の気持ちとかけ離れたものになってしまうので、チラシの書き方の再検討をお願いしたい。
あと、参考資料がない報告があるので、次回から付け加えていただきたい。報告の参考資料はあとで確認することが多いので、1 枚程度の簡単な資料でよいので提出いただきたい。

事務局 : 「工場緑化の顕彰制度について」チラシの書き方については、委員のご指摘のとおり修正する。資料につきましては、今後、準備できる資料は提出する。

会長 : 推薦賞の書き方は大阪の鶴見緑地にある（公財）国際花と緑の博覧会記念協会の「コスモス賞」のホームページなどの推薦状の書き方を参考にすればよい。また、表彰状だけ

でなく、ステッカーを車に貼り付けるなどすれば目立ってよいと思う。効果のある表彰を検討ください。

事務局 : 記念になるような物を検討する。

委員 : コミュニティサイクル社会実験の応募状況と、内容を教えて欲しい。

事務局 : 尼崎市内に自転車を借りるポート 10 箇所以上設置し、1 年半運営する事業である。事業の告知は尼崎市のホームページで行っている。

会長 : 尼崎の森中央緑地の古民家は、茅葺屋根が台風 21 号で損傷してしまった。古民家の前に防風の壁などをつくる必要があるのではないか。

事務局 : 現在は、週末の台風対策として、茅葺の補修を行っているところであり、今後検討していきたい。

委員 : これまでの森の会議における意見交換のテーマの 1 つとして、会議で 3 回程度検討した神鋼栈橋の活用について提案書を作成した。

事務局 : 神鋼栈橋は、過去には神戸製鋼の栈橋として利用されていたが、森構想の整備検討が始まった時期に企業庁が神戸製鋼から引き取り、簡易な補修を行なった上で、平成 19 年度に企業庁から兵庫県に引継ぎ、港湾施設となった。平成 18 年に港湾計画が改訂された際には、クルーズ船など旅客船用のふ頭計画に位置づけされている。提案書に示されたような施設として利用するには、港湾計画に位置付ける必要がある。位置づけするにあたっては、提案に示された短期長期の利用に応じてどのように港湾計画に盛り込むか検討する必要がある。

委員 : スポーツの森では、水泳などオリンピック選手の誘致を行う予定であるが、周辺にはホテルがない。このため、栈橋に停泊する客船などに宿泊してもらうなど色々夢がふくらむ。

委員 : 個人的には神鋼栈橋の活用の提案については、興味を引くものである。尼崎の森中央緑地は北側から整備がはじまり、100 年の森づくりを行っている。栈橋を含めた港湾緑地など南側の整備がようやく進められるので、提案の内容を港湾課に伝え、公園の新しい利用として、県民が楽しく神鋼栈橋を使っていける方向に検討したいと考えている。

委員 : 港湾計画には、変更した箇所もあったが、いくつか「なぎさ」を整備する内容も盛り込まれている。栈橋の入口に「なぎさ」を整備する計画もあった。港湾計画の見直しでこれらの計画内容が変更され、後退しないようにしていただきたい。

委員 : 平成 18 年度の港湾計画について、一度森の会議などで勉強会を開催してはどうか。非常にたくさんの方が盛り込まれているので、この会議とは別で意見交換を行っても良い

と思う。

委員 : 尼崎市に観光課がない。尼崎城の築城にあわせて、観光協会をつくって、いっしょに尼崎21世紀の森づくりを盛り上げていくことを考えていかなければならない。

委員 : 尼崎市は、外部の「一般社団法人あまがさき観光局」に市の職員を派遣し、観光の取組を進めているところである。都市整備局からは、観光振興と関連させて、尼崎21世紀の森づくりに取組んでもらえるようお願いをしている。港湾計画については、既存企業が検討している内容を盛り込めるように県にお願いしていく。

委員 : シェアサイクルの件について、補足説明をさせていただく。業者の応募に当たっては、ヒアリングや調査を行ってきた。そのヒアリング内容は、シェアサイクル事業に取り組むにあたって行政から補助金が必要な企業、また必要としない企業があった。今回の応募条件としては、行政からの補助金を提供しないということで決定したため、応募する企業が限られてくるので、応募期間が短くなっている。

会長 : 尼崎城の取組は、他の地域からも興味深い取組として注目されている。ぜひ協力して尼崎21世紀の森づくりと合わせてすすめていただければと思う。

■閉会

以上